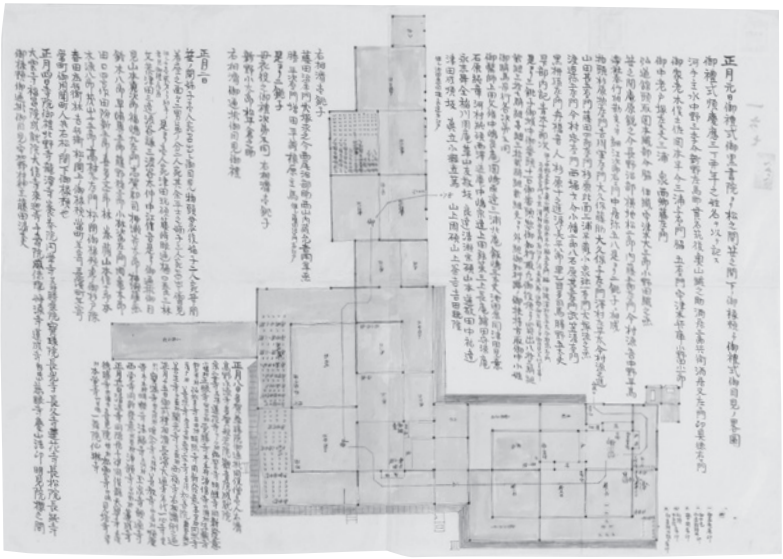
彦根城博物館だより 139

Hikone Castle Museum News
2022.12.1

テーマ展

彦根藩の年中行事

2023年
1/1（日・祝）〜2/7（火）



彦根城表御殿（ひこねじょうおもてごてん）正月御礼式図（しょうがつおれいしきず）

当館蔵

元日に彦根城表御殿で彦根藩士が藩主に対面する際の人員配置が書かれた図です。明治二十年（一八八七）に、幕末の頃を振り返って描かれたもので、余白には出席した藩士らの名前が所狭しと書き込まれています。

黒書院（図の右下）で家老をはじめ知行取りの藩士たちに順に対面し盃を賜う儀式があり、その後大広間（図の中央下側）の縁側などに居並ぶ歩行（かち）や小役人などに通り掛けの御目見（おめみえ）をしていました。黒書院近くには、儀式に立ち会う側役（そばやく）や小姓（こしょう）らも記されており、その場の様子を詳しく知ることができます。

展覧会情報

テーマ展
彦根藩の年中行事
1月1日 ▼▼ 2月7日

特別公開
雛と雛道具
2月10日 ▼▼ 3月13日

テーマ展
大名の装い
―井伊家伝来装束を中心に―
3月17日 ▼▼ 4月17日

展示案内 2023年 1月～3月

常設展示 ”ほんもの“との出会い

―彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に八〇点あまりを展示―

テーマ展　展示室1

彦根藩の年中行事

1/1（日・祝）～2/7（火）

彦根藩では、正月、五節句、毎月一日や十五日などは惣出仕の日で、彦根城表御殿に藩士たちが勢揃いして藩主に対面する行事が執り行われました。これは仕事の一つとして捉えられるものですが、一方で、藩主も彦根藩士たちも、正月には雑煮を食べたり、秋には月見をしたり、毎年恒例の行事を楽しんでもいました。

一年を通じて彦根藩で行われていたさまざまな行事について、彦根城表御殿での儀礼から、家ごとに行われる社会的慣習まで、その様子を覗いてみます。

年中行事

黒漆塗橘紋蒔絵膳椀類

◉スライドトーク◉

■日　時　1月7日（土）14時～（30分程度）
■講　師　早川駿治（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）
＊関連講座を開催します。（4頁参照）

特別公開　展示室6

雛と雛道具

2/10（金）～3/13（月）

江戸時代、大名家では、姫君の婚礼に際して、調度や雛道具などの道具一式を調えて婚家に持参する慣わしがありました。安政五年（一八五八）、井伊家十三代直弼の息女弥千代（一八四六～一九二七）が、高松藩松平家世子頼聡に嫁いだ際にも、大揃えの婚礼調度とともに、雛と雛道具が調えられました。

本展では、弥千代の雛と雛道具を、地元の旧家に伝えられた古今雛や御殿飾りとともに一挙に公開します。桃の節句にふさわしい華やかな雛の飾りをご覧ください。

弥千代の雛道具

◉スライドトーク◉

■日　時　2月11日（土・祝）14時～（30分程度）
■講　師　奥田晶子（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）

テーマ展　展示室1

大名の装い
―井伊家伝来装束を中心に―

3/17（金）～4/17（月）

古来、衣服は、形や色、素材などによって身分や地位を示す役割を担ってきました。江戸時代においてもそれらを反映した服制が定められ、大名も参加する儀礼や行事、格式に応じて着用する装束が決められていました。朝廷への参内や江戸城での将軍宣下では最も格式の高い束帯や衣冠、節句などの儀礼では長袴が用いられたことが記録から確認されます。本展では、井伊家当主やその世継が用いた装束に加え、当主の肖像や古文書を通して、礼装を中心とした大名の装いを紹介します。

黒地鮫小紋橘紋付肩衣（個人蔵）

蝋色塗鞘大小拵・小さ刀拵

◉スライドトーク◉

■日　時　3月18日（土）14時～（30分程度）
■講　師　茨木恵美（当館学芸員）
■会　場　当館講堂
■参加費　無料
■定　員　50名（先着順）

研究余録

金亀玉鶴

足軽の願書に見る足軽の苦悩

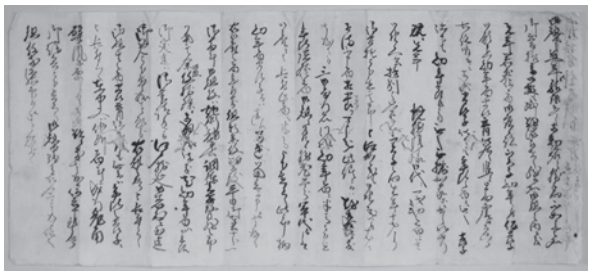
寛永十年（一六三三）、彦根藩井伊家は千人を超える足軽を召し抱えるに至りました。彦根藩では、足軽を三十七の組（弓組六組・鉄砲組三十一組）に編成し、彦根藩士である物頭（足軽大将）に各組を預けて支配させ、組単位で様々な藩の役を担わせました。彼らは原則一代限りの召し抱えとされていましたが、実質は家の相続が黙認されており、その総数は江戸時代を通じて概ね変わりません。一見すると安定した相続がなされていたように見えますが、実際にはそれに大変苦心していたことが明らかになってきています。

左下の史料は、井伊家十二代当主直亮（なおあき）の時代（一八一二～一八五〇）に、幼年の足軽の養い方について出願しようとした弓組の足軽が、組内の役付きの者たちに回した願書の案文です。冒頭には、彼らに課される「旅詰」が近年多く、銘々窮乏している上に、御変革で給金も減じられ、一同難渋しているとあります。「旅詰」は、足軽が組内で順番に勤めた江戸や京都への詰め番、近国や遠国への宰領などの総称です。これがこの時期に増加するのは、当時日本近海にたびたび出没するようになった外国船への対応として、多くの足軽が彦根藩兵の一員として江戸などに派遣されたためと考えられます。

続けて願書では、こうした状況下で若死にする足軽もおり、跡継ぎとなる実子が幼年のため、すぐには足軽となれず、他家に「仮養子」として預けられて養育されている実態が挙げられます。このままでは、①組内に年頃の跡継ぎがいなくなり、②たとえ適当な養子を迎えても幼年の子を養えない状況は変わらず、出家などをさせて寺へ遣わすことになるというのです。このうち、①については、先代当主の井伊直中（なおなか）の時代（一七八九～一八一二）に、実子であれば跡継ぎとなれる年齢を十歳まで引き下げると命じられたことにより、一定の解消が図られたものの、②については十歳まで養育することが依然として難しい状態であると説明しています。

そこで彼らはこの問題の解決策として、彦根藩の歩行と同様に、十歳未満の者に「半高」（足軽の給分の半分）を下され、さらに隠居する年齢に達した組内の「紛老」（老人のことか）を「半高」で雇うように願い出ています。その上で、幼年の者は十歳まで江戸詰の順番を先送りし、「御着到二至迄」（足軽全員を集合させて行う出欠確認のことか）免除すること、また「紛老」には「十分一御番」（辻番の補助役）や、新参の足軽の稽古や砲術稽古の調練、急な出陣への対応を勤めさせ、この他の役を免除することもあわせて要望しました。

この願いが最終的に聞き届けられたのかはわかりませんが、海防問題に直面した江戸時代後半において、少なくとも足軽がそれまでの組のあり方では役負担の増加に耐えられない状況に置かれたことは間違いありません。藩から家の相続を公認されていないため、表向きそれを藩に求めることができない中、いかに安定した相続を組として実現させ、組の幼年の者を養育していくのか、この大きな課題に苦慮する足軽たちの声がこの史料から聞こえてくるのです。（北野智也）



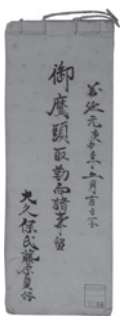
願書（個人蔵）

展示室6「古文書が語る世界」より

彦根藩大久保家文書

彦根藩士大久保孫左衛門家伝来の古文書を展示します。同家六代目小膳（ぜん）は、井伊直弼と直憲（なおのり）に近侍し、後に直弼の邸宅であった埋木舎（うもれぎのや）を与えられました。同家には、小納戸（こなんど）役や側役（そばやく）、鷹頭取（たかとうどり）などの文書が数多く伝わり、彦根藩井伊家文書と相補い、藩主とその側近くの様子を知る上で欠かせないものです。この機会にぜひ御覧ください。

【展示期間】
1月1日（日・祝）～2月7日（火）



御鷹頭取勤向諸事留

◉開館記念日くじびき

彦根城博物館は、令和五年二月十一日に開館三十六周年を迎えます。当日は、博物館オリジナルグッズなどの記念品をくじびきにて贈呈いたします。ご観覧と併せて、ぜひご参加ください！

■日　時
2月11日（月・祝）8時30分～17時
（記念品が無くなり次第、終了）

■会　場
当館脇見所

＊くじびきへのご参加は、ご観覧の方のみとさせていただきます。ご了承ください。
＊記念品の内容は、当日の公開となります。

スケジュール 12月～3月

12月

- 3土 講座 私の研究最前線「殿様の鷹狩りを支えた人たち」
- 7水～31土 休館

企画展
彦根藩井伊家の刀剣 11/10～12/6

1月

- 7土 スライドトーク 彦根藩の年中行事
- 14土 講座「年中行事を比較する」

テーマ展
彦根藩の年中行事 1/1～2/7

“ほんもの”との出会い

2月

- 8水・9木 休館
- 11土・祝 開館記念日 スライドトーク 雛と雛道具
- 18土 講座 私の研究最前線「井伊家伝来の公家装束を紐解く」

特別公開
雛と雛道具 2/10～3/13

常設展示

2/10～3/13 展示替および工事により一部休室

3月

- 14火～16木 休館
- 18土 スライドトーク 大名の装い
- 26日 公開研究会「殿様の外出」

テーマ展
大名の装い ―井伊家伝来装束を中心に― 3/17～4/17

3/17 展示替により一部休室

催し

講座

■日時・演題・講師

①12月3日（土）14時～15時30分
私の研究最前線
「殿様の鷹狩りを支えた人たち」
竹内光久（当館学芸員）

鷹狩りには、鷹の飼育、鷹の餌の調達、鷹場の管理などに、多くの人々が関わっていました。本講では、彦根藩井伊家における鷹狩りを支えた、彼らの具体的な役割を紹介します。

②1月14日（土）14時～15時30分
テーマ展関連講座
「年中行事を比較する」
早川駿治（当館学芸員）

江戸幕府・彦根藩・彦根藩士家では、同じ名目の年中行事を行うにしても、参加者の地位や組織の規模の違いが反映されます。それぞれの行事内容の共通点や相違点をあぶり出します。

③2月18日（土）14時～15時30分
私の研究最前線
「井伊家伝来の公家装束を紐解く」
茨木恵美（当館学芸員）

井伊家に伝来した、当主やその世継が儀式で用いたとみられる、石帯や平緒をはじめとする公家装束。これらの資料について、調査の成果を踏まえて初めて紹介します。

平緒

■会　場　当館講堂
■定　員　各50名
■資料代　各100円（彦根市内在住の中学生以下は無料）
■受　付　当日受付（先着順、受付13時30分～）

彦根藩史料調査研究会 公開研究会

当館では「殿様の日常生活」の解明に向け、昨年度より当館学芸員と外部研究員による共同研究を進めています。今年度の公開研究会では、井伊家十代当主直幸が鷹狩りや寺社参詣などを行った場面に焦点を当てます。殿様はどのように外出をしていたのか、またそれはどのような人たちによって支えられていたのかを、御殿から城下を通って外出する道筋なども含めて具体的に紹介します。

■日時・テーマ
3月26日（日）13時～16時30分
「殿様の外出―井伊家十代当主直幸による鷹狩りと寺社参詣を中心に―」
■会　場　当館能舞台正面見所
■報告者　3名（当館学芸員・外部研究員）
■受講料　500円
■定　員　60名
■受　付　当日受付（先着順、受付12時30分～）

◆休館・一部休室のお知らせ◆

施設整備のため休館・一部休室いたします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

【休　館】12月7日（水）～31日（土）
【一部休室】2月10日（金）～3月13日（月）

現在、開催を予定している展示・講座等は、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況により、中止となる場合があります。最新の情報は、彦根市や当館のホームページ、ツイッター等でご確認ください。

Hikone Castle Town 彦根城を世界遺産に

編集・発行
彦根城博物館
〒522-0061　滋賀県彦根市金亀町１番１号
TEL 0749(22)6100　FAX 0749(22)6520
https://hikone-castle-museum.jp/

この印刷物は6000部作成し、印刷単価は約15円です。